

日本発ドイツ便り：季節限定ビール

ドイツにも季節限定のビールがあります。一年中醸造されているもののほかに、

- 春（イースターや春のビール祭りの頃）
- 夏（オクトーバーフェスト用のホップをたくさん入れたビール）
- 秋（アルコール高めのビールの時期開始）
- 冬（アドヴェント、クリスマスから新年にかけて）
- 2-3月のカーニヴァルの頃（ドイツでは第5の季節と呼ばれます）

という感じで、限定ビールが登場します。

特に厳密に決まりはないようですが、秋から冬は Starkbierzeit（シュタルクビアツァイト：強いビールの時期）と呼ばれて、アルコール濃度が高くなるようです。



私の大好きな Bamberg の醸造所が経営しているレストランで、見てみると。これが年中飲める Märzen（メルツェン：もともとは春のビールのはずですが、この際気にははいけません。☺ Bamberg 名物 Rauchbier：燻製ビールなのでちょっと違うんでしょう。）

アルコール度数 5.1%です。

そしてこれが前回遭遇した季節限定ビール。その名も Urbock（ウアボック）これが10月から年明けくらいまでの限定ビールです。お姉さんに勧められて試してみました。

Märzen でも相当濃いですが、Urbock はさらに濃縮されたような味と香り。なんだかもう普通のビールには後戻りできなくなるような強烈な個性でした。アルコールが6.5%。あんまり強くない私は、しばらく酔っぱらってふらふらでした。見た目何が違うか分かりにくいですが、よく見るとグラスの形が微妙に違います。



これはまた別の時に勧められつつ、アルコール度数を聞いて挫折した、クリスマス限定のビール。



アルコール度数 8%でした。今となってみれば、飲んでみればよかったです。とちょっと後悔。もし次に出くわしたらぜひ試してみたいと思います。

ところで、ドイツの中でも München に代表されるように、特に Bayern はビール王国。その中でも最近 Bierreise (ビア・ライゼ：ビール旅行。要は飲み歩きですね。) で脚光を浴びているのが Franken (フランケン) 地方。もともとフランケンワインでも有名な地域ですが、最近では "Franken, Heimat der Biere." ("フランケン、ビールの故郷") のスローガンの下、新たな観光資源として、売出し中な感じです。フランケンといえば、ニュルンベルクにバンベルク、ビールの街 Kulmbach (クウムバッハ) もこの地域に含まれます。ギネスブックに「人口当たりのビール醸造所の数が世界一多い」と認定されたのも、フランケンのどこかの小さな町です。(人口 1400 人の町に、醸造所が 4 軒=350 人に 1 軒とのことでした。すごいですね。) 昔から「ビールは醸造所の煙突が見えるところで飲め」とドイツでは言われているようですが、この町なら可能ですね。☺

ドイツのビールは、季節限定もそうですが、基本的には、醸造所のある地域で飲まれて、全国的に流通しているビールというのは、種類はそう多くはないです。ドイツには全国に約 1300 の醸造所があって、その約半分がバイエルン州にあります。加えて、1516 年 4 月 23 日に制定された Deutschen Reinheitsgebot (ビール純粋令：現在でも有効な食品に関連する法律としては世界最古!) 以来、開発されたビールの種類 (ピルスナーとか黒ビールとか白ビールとか) が 5000 くらい。理論的には、毎晩飲んだとしても 13.5 年は毎日違う種類のビールが試せる。らしいです。

果たしてすべてのビールを試した人がいるのかどうか? まあ、とつても奥の深いドイツビールです。



ところで、日本では「お酒は 20 歳になってから」ですが、ドイツでは、16 歳からです。そんなドイツ人が、必ず一度は集めるのがビールのコースター、Bierdeckel (ビアデッケル)。醸造所・ビールの種類・もしくはレストランごとで作っているもので、大きさも形もデザインも色々あって、なかなか面白いですよ。だいたい机の上に何枚か置いてあるので、綺麗そうなのをもらってよいですし、お店の人に「集めているので、ちょうだい!」とか言ったら、喜んで何種類もくれたりします。

同じく、グラスやジョッキの形もビールの種類によって違うのですが、もし気に入ったグラスに出会えば、レストランで聞いてみてください。売ってくれるところも多いですよ。(グラスを集めている人も多いです。)

ビールをテーマにしたドイツ旅行も楽しいかもしれません。

Bier Reise については、またの機会に。☺